

くろかわかたどりおどしのはらまき
根津美術館所蔵の「黒韋肩取威腹巻」が国の重要文化財指定



重要文化財
黒韋肩取威腹巻
1領
日本・室町時代 16世紀
根津美術館蔵

このたび、根津美術館が所蔵する「黒韋肩取威腹巻」(1領 日本・室町時代 16世紀)が国の重要文化財に指定される運びとなりました。

これは、2022年11月18日(金)付けで文化審議会から文部科学大臣に答申されたことを受け、決定されたものです。当館が所蔵する武具が重要文化財に指定されるのは、今回が初めてとなります。

作品について：

腹巻とは、背面から体を入れて引き合わせる形式の鎧である。鹿のなめし革を藍で濃く染めた「黒韋」を主体に、立拵や袖の上部を紅糸、白糸で綴り合せている。札の大きさや威、八重菊の鉾を打った金具など、室町時代の腹巻の典型的な形式を示す。胸や背面上部が離れた状態で長く保管されていたが、2019年の組み立てにより当初の姿がよみがえった。

館長 根津公一 コメント：

このたびの重要文化財指定を大変光栄に存じます。この作品は袖を具えた室町時代の腹巻の典型的な形式を示すとともに、製作当初の姿を残している大変貴重なものです。引き続き、大切な文化財を未来の世代に引き継ぐ使命を果たしてまいります。

この作品は2023年に当館で開催される下記の展覧会で展示予定です(現在展示しておりません)。

・2023年9月2日(土)～10月15日(日)

企画展「甲冑・刀・刀装具―光村コレクション・ダイジェスト―

※展示内容の詳細は、後日当館ウェブサイトなどでお知らせしてまいります。

根津美術館プレスリリース

2022年11月18日

<根津美術館について>

根津美術館は、実業家・初代根津嘉一郎のコレクションを基礎として、私邸のあった南青山の地に1941年に開館しました。収蔵品約7,600件には、「燕子花図屏風」（尾形光琳筆 日本・江戸時代 18世紀）など国宝7件、重要文化財89件（今回新たに指定される「黒草肩取威腹巻」を含む）、重要美術品は95件が含まれ、絵画、書蹟、彫刻、陶磁、漆工、金工、染織、考古など多岐にわたる日本と東アジアの古美術品によって構成されています。2万㎡を超える広大な敷地には茶室が点在し、四季折々の風景が楽しめます。

公式ホームページ：www.nezu-muse.or.jp

本件（作品画像を含む）お問い合わせ先：

根津美術館 学芸部 広報課 所・村岡

e-mail press@nezu-muse.or.jp

Tel. 03-3400-2536

- ・上記情報は、発表日現在のものです。内容は予告なしに変更されることがありますので、あらかじめご了承ください。